

約400年前に堺市の石工たちが始めたとされる仙台市の伝統芸能「すづめ踊り」が15日から、初めて「里帰り」し、第32回堺まつりに登場する。両市はかつて情報交換しながら政令指定都市を目指した仲で、堺は来年4月によくやく、政令市・仙台に追いつく見通し。ヨサコイチーム「堺『鳴組』」代表で、里帰り歓迎の会事務局の楠本篤子さん(50)は「石工が作ったつなぎを生かし、政令市同士の新しい交流が生まれれば」と期待している。

すづめ踊りは「仙台・青葉まつり」のメインイベントとして知られ、法被

「すづめ踊り」里帰り

堺の石工が400年前に始めた仙台の伝統芸能

70人を招待 15、16日の堺まつりでお披露目



「仙台・青葉まつり」で踊る「すづめ踊り」の祭連
—仙台市提供

姿のグループ「祭連」といって扇子を手に太鼓や鉦の音に乗って踊る。1603年の仙台城完成の祝宴で、石垣造りのために集められた「泉州・堺」の石工らが即興で、えさをついて踊ったのが起源とされる。里帰りのきっかけは03年10月。大阪・泉州のヨサコイ連合チームが仙台でのヨサコイ祭りに参加した際、競演していたすづめ踊りを初めて見た。興味を持った連合チームの一員、堺『鳴組』が練習し、イベントで披露すると、地元のまちおこしグループが応援。政令市・堺の名物づくりを模索していた行政も支援を始め、今

いばむスズメのように踊ったのが起源とされる。里帰りのきっかけは03年10月。大阪・泉州のヨサコイ連合チームが仙台でのヨサコイ祭りに参加した際、競演していたすづめ踊りを初めて見た。興味を持った連合チームの一員、堺『鳴組』が練習し、イベントで披露すると、地元のまちおこしグループが応援。政令市・堺の名物づくりを模索していた行政も支援を始め、今

回、すづめ踊り精銳約70人の招待が実現した。堺まつりの15、16両日、舞台やパレードで乱舞する。

堺と仙台は83年、政令市以外の人口数ベスト3市の千葉とともに3市事務連絡協議会を結成。政令市を目指し意見交換を始めた。しかし、堺の人口が微減傾向のうちに、堺まつりを主催する堺観光コンベンション協会は「政令市移行を機に、仙台の宝、すづめ踊りを、堺の顔にもしたい」と話している。問い合わせは同協会(072・2333・52258)。

【佐々木雅彦】